



3月25日

月曜日

発行所

山陽新聞社

岡山市北区柳町2-1-1

新聞製作センター

岡山市北区新開町1-1-1

滴一滴

中央と比べ地方の大学は予算も人も少ない。それならこの地域でしかできない、世界に通じる研究をしよう。香川大特任教授の何森健さん

(69) 玉野市出身は約40年前、

こう決意した▼研究対象は「希少糖」。ブドウ糖や果糖と同じ単糖の仲間だが、自然界にわずかに存在しない。何の役に立つのか分からず、研究者も少なかったという▼1991年に大学構内の土から果糖を希少糖に変える酵素を発見し、世界で初めて希少糖の量産に成功した。これを機に希少糖の研究が加速し、血糖値の上昇や脂肪の蓄積を抑える機能を持つことが確認された▼香川県はこの地元産「夢の糖」で地域振興を図る。希少糖入りの甘味料が商品化され、洋菓子など多くの食品で利用が広がっている。医療や農業での活用に向けた研究も進む▼国際希少糖学会の本部は同大にあり、香川が世界をリードする。何森さんは、先月出版した「希少糖秘話」で、「希少糖の研究は、瀬戸内海のあるこの地方で生まれ発展している」と記す▼その瀬戸内海の島々と港を舞台に「瀬戸内国際芸術祭」が先週から始まった。自然と歴史に現代アートが加わり、世界の人々を魅了する。まさにこの地域ならではの祭典だろう。サイエンスやアートの新たな可能性を求め、瀬戸内地域の挑戦と発信が続く。

2013.3.25